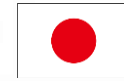




# 桜だより



2022年8月10日発行

## 「学ぶ」ことの楽しさを！



飛行機の窓から何気なく下を眺めていた時、左の写真のような不思議な模様を見つけました。巨大な円形が地上絵のように、いくつも続いていたのです。しかも、かなり広い範囲で見られました。

「一体何だろう？」

しばらく考えてみました。人工的なものであることは間違いのないと思いましたが、何故丸いのかは分かりませんでした。実は有名なもののようなので、皆様はご存じかと思うのですが、その時の

私には見当もつきませんでした。それから約3週間、人に聞いたり、本を開いたり、インターネットで検索するなどして調べていました。そして、ついにその正体が分かったのです。

始業式の日、子どもたちにこの体験を通して、「学ぶ」ことの意義や楽しさについてお話をしました。もちろん、学校の勉強も大切です。しかし、本当の楽しい「学び」とは、「何だろう」「何故だろう」と不思議や疑問を見つけ、そのことについて自分なりに考え、想像し、調べてみることだと思います。人に聞く、本で調べる、インターネットを活用することもひとつの方法です。調べても分からない場合もあるかもしれません。最終的に分からなくてもいいと思います。自分で調べて正解が分かったときの喜びは、「学ぶ」ことの本当の楽しさを教えてくれます。だから、疑問を持ち続けることが大切だと思うのです。

今回、巨大な円形の地上絵から始まり、セラードという土地のこと、巨大な灌漑機械が1日かけて散水していること、不毛の土地が大豆の一大生産地に生まれ変わったこと、そしてそこに日本が関わっていたということが分かり、私にとって大切な「学び」のひとつとなりました。これまでも、種類の違う自動車のナンバープレートからブラジル経済に繋がったり、隣同士の家がくっついて建てられていることからブラジルの歴史にたどり着いたりするなど、何気ない疑問(不思議)からブラジルのことを学んできました。子どもたちにも、身の回りからたくさんの疑問を見つけ、考える楽しさを感じてほしいと願っています。もし子どもたちが何か「疑問・不思議」を発見したら、すぐに正解を与えるのではなく、一緒に考えてあげていただけますでしょうか。



巨大な灌漑機械

予測不可能な未来社会を生き抜く子どもたちにとって、考える習慣を身につけることはとても大切なことです。日本には、豊かな資源も広大な土地もありません。だから知恵や優れた技術力で世界に貢献してきました。これはこれからも変わらないと思います。だからこそ、子どもたちには、今いろいろなことを学んでほしいのです。自分が身につけた知識や技術・技能は、誰にも奪うことはできません。必ず自分自身を助けてくれます。これからも「学ぶ」ことの楽しさを、子どもたちに繰り返し伝えていきたいと思っています。

昨日から静かだった校舎に子どもたちの元気な声に戻り、2学期が始まりました。子どもたちも決意新たにスタートすることができました。今学期は85日間という長い期間となります。1学期同様次年度に繋げるために、できることには果敢にチャレンジしていきたいと思っています。そして、基本的な感染防止対策を行いながらも、子どもたちにとって充実した学校生活になるよう、職員一同全力で取り組んで参りますのでよろしくお願いいたします。

## 2学期はじまりました



冬休みの思い出と、2学期の決意を発表しました。



みんな元気に2学期の学習をスタートしました。たくさんの楽しい思い出を作っていきます。



## 8月2日はリオ日学の誕生日でした

8月2日は、学校のお誕生日である開校記念日でした。冬休み中のため、毎年、当日に扱うことはありませんが、昨年は創立50周年を迎え、コロナ禍ではありましたがひとつの区切りを付けることができました。今年は創立51周年です。次の100周年へ向けて、始まりの年となります。改めて本校の歴史を振り返りたいと思います。

リオ日学は、昭和35（1960）年に石川島播磨重工業株式会社が、主に日本からの派遣職員の子女教育のために企業内教育施設をチジュカに開設したことに始まります。そして、昭和46（1971）年に「リオ・デ・ジャネイロ日本人子弟教育会」が正式に発足し、その年の8月に開校式をリオ・デ・ジャネイロ総領事館で行いました。当時の児童生徒は53名、派遣教員2名、現地採用教員5名でスタートしたのが、リオ日学の始まりです。

児童生徒数は、毎年増え続け昭和55（1980）年には、ピークの406名（年度途中では420名）に達しました。その後、1980年代のバブル崩壊やイシブラス（石川島ブラジル造船所）のブラジル撤退に伴い、毎年50余名の児童生徒が減っていきました。昭和63（1988）年から4年ほどは100名前後を維持していたものの、それ以降も毎年のように減り、ここ数年は20名～10名台で推移しています。

校舎も近隣の治安悪化により移転を強いられたり、自然災害のため一時避難したりして、苦労した時代もありましたが、多くの人々の努力で今日まで教育活動を続けることができました。

現在、本校を巣立った卒業生・在校生は、各地域・各分野でご活躍されています。そんな先輩の皆様が続いて、社会で活躍できる優秀な人材育成を目指して参ります。学校の評価は、そこを巣立った児童生徒の姿で決まります。子どもたちには、これまで多くの先輩方が築いてこられたリオ日学の誇りを胸に、更に学びを深め立派な青年に成長することを期待しています。

